

令和6年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(花園中学校)

平均正答率

1 自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

教科	国語			数学			英語	
学年	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
花園中	下回った	下回った	下回った	下回った	上回った	下回った	下回った	下回った
埼玉県	59.9	60.3	66.4	53.5	48.8	57.5	61.9	54.6

2 自校の学力レベルと県の学力レベル

教科	国語			数学			英語	
学年	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
花園中	7-C	8-C	8-A	6-C	8-C	7-B	9-C	9-B
埼玉県	7-A	8-C	9-C	7-C	7-A	8-C	9-C	10-C

3 自校の学力の伸びと県の学力の伸び

教科	国語			数学			英語	
学年	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
花園中		1	2		3	-2		1
埼玉県	1	0	2	1	2	0		3

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	中1		中2		中3	
		花園中	埼玉県	花園中	埼玉県	花園中	埼玉県
深谷の子の誓い	・将来の夢や目標を持っている	85.7	79.8	71.8	69.4	72.9	67.0
	・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	74.3	73.0	74.4	67.7	68.8	68.3
	・誰に対しても進んで挨拶をすることができる	89.5	84.7	92.3	83.0	89.6	85.3
	・脱いだはき物のかかとをそろえることができる	85.7	88.7	95.7	89.9	95.8	92.5
	・相手の気持ちやその場の状況を考え、優しい言葉遣いができている	90.5	89.6	94.9	88.2	97.9	91.4
	・勉強するときは、最初に計画を立ててから始める	48.6	45.9	51.3	43.5	46.9	43.8
	・休日などの学校が休みの日に1日当たり1時間以上勉強している(塾等を含む)	71.4	68.7	80.3	65.9	78.1	71.8
学習策の関心	・勉強することが楽しい、好き(勉強する理由として)	8.6	15.6	14.5	11.4	10.4	11.3
	・勉強は将来の進学や就職に役に立つ(勉強する理由として)	80.0	77.0	65.0	68.9	64.6	65.4
	・県や地域の歴史や自然に関心をもっている	66.7	56.9	64.1	45.9	54.2	42.4
授業について	・授業を通して学んだ内容についてさらに詳しく知りたい、学びたいと思った	54.3	65.6	70.9	62.5	61.5	57.8
	・課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをもてるようになった	77.1	82.5	82.1	84.0	78.1	78.0
	・国語や数学、英語の授業で、ほぼ毎回タブレットを使っていた(3項目の平均)	5.7	21.1	35.3	18.3	13.2	19.3
	・昨年度、週2回以上、タブレットを家に持ち帰って、宿題含めて学習に利用した	42.9	27.1	33.3	12.7	18.7	12.0
その他	・学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれた	94.3	92.1	93.2	93.3	96.9	93.0
	・学校の友達は自分のよいところを認めてくれた	95.2	94.9	98.3	95.2	99.0	95.2
	・学級での生活は楽しい	91.4	92.4	94.9	93.7	96.9	92.1

【質問紙分析】

- ・「将来の夢や目標を持っている」割合が県の割合と比べて高いのは、「立志式」に向けての取り組みで、将来について真剣に考えた結果であると考えられる。
- ・「誰に対しても進んで挨拶をすることができている」割合が高いのは、生徒会が中心となり「あいさつ日本一」の取り組みを行っている成果であると考えられる。
- ・「昨年度、週2回以上、タブレットを家に持ち帰って、宿題含めて学習に利用した」割合が県の割合と比べて高いのは、各教科の授業においてタブレットを活用し、学習や課題に取り組んでいる成果であると考えられる。しかし、全生徒数に対する割合としては低いので、「個別最適な学び」の実践に向けて、教員のICT活用能力を向上していくための研修を行う必要がある。

伸びが見られた学級・教科での取組

【国語】

- ・振り返りカードを用いて自らの学習を分析し、復習すべき事項や習得した知識・技能を明確にすることで学習内容の定着を図っている。
- ・小テストを用いて知識・技能の定着を図るとともに、ICTを用いて書く活動や話す活動を行うことで意見交換や表現の工夫の共有を効果的に行い、思考・判断・表現の力を伸ばすように指導している。

【数学】

- ・2年生の伸びの割合が3であり、とても高かった。該当学年の授業では、計算問題等で細かな計算手順を明記したり、テストの解答では、様々な解法を記載したりなど、細かなつまづきに対応できるように工夫した。
- ・例題の解説が終わった後に、必ず演習の時間を設けて、生徒が問題と向き合う時間を多く確保している。

【英語】

- ・3年生の伸びが1で、「書くこと」の領域の正答率では2学年の時に比べ11.3点も上がっていた。該当学年の授業では単元の単語だけに限らず基本的な単語の小テストを行い語彙力の定着を促した。また語順を意識した指導を行い定期的な英作文の小テストなどの活動を取れた。

一人一人をより伸ばすための取組

- ・日々の授業の中で生徒の自己肯定感・共感的な人間関係を育み、自己決定の場を提供することにより、自己効力感や学習に対する意識を高め、学習方略や非認知能力を養う。
- ・生徒理解を基盤とした「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現に向けて、それぞれの分野の垣根を越えた包括的な指導・支援体制をもつ教職員集団（チーム学校）を形成し、生徒一人一人への最適な指導・支援により学力を向上させる。